

「まず挑戦 すぐに修正・改善 AARサイクル」

見通し・行動・振り返りのサイクルで、学びの自己調整力を高める

AARサイクルって何？

なぜAARが必要なの？

どのように取り入れるの？

修正・改善を繰り返すAARサイクル



ある程度の見通しが立つたら、まずはやってみて（挑戦し）、修正・改善を繰り返し、少しずつ完成に近づけていく課題解決サイクルが求められています。この**見通し**、**行動**、**振り返り**のサイクルを**AARサイクル**といいます。

Anticipation（見通し）
Action（行動）
Reflection（振り返り）

変化の激しい予測困難な時代だから

1、2年先でさえも予測困難で先行き不透明な激動の時代（**VUCAの時代**）を迎えています。その中でPDCAサイクルを回そうとすると、計画の前提となる社会情勢が変化し、計画の修正せざるを得ない状況が繰り返されてしまいます。激動の社会変化に対応できるスピード感は、AARサイクルの強みです。



どの教科でも 気軽に実現 AAR！

AARの視点で日常や授業を振り返ると、意外と行っていることにも気づかされます。どの教科でも、どの場面（導入・展開・終末）でも、気軽に取り入れられるのがAARのよさです。

なすことによって学ぶという点で、特別活動（学級活動、生徒会活動、学校行事）とも親和性が高いです。

子どもたちがAARを自覚し、意識的に取り組むことが大切です。



PDCAサイクルとは違うの？

PDCAサイクルは、組織や一定のプロセスなどを対象として行うものです。

何らかの前提に基づいて中期的な計画を立て、その通りに実行し、評価と改善を行います。

サイクルの途中で柔軟に計画を修正することが難しく、側面があります。



Plan（計画）
Do（実行）
Check（評価）
Action（改善）

答えがないからこそ柔軟に修正・改善を！

VUCAの時代の今、私たち一人一人、そして社会全体が、答えのない問題にどう立ち向かうかが問われています。

答えがない課題に立ち向かうには、まずは予測を立て、試行錯誤しながら、目標に向かって柔軟に修正・改善を繰り返すことが重要です。

このようなAARサイクルの思考や体験を繰り返すことで、**これからの時代に求められる資質・能力**、自分の学びをコントロールする**自己調整力**を高めることができます。

教師もAAR とりあえず第一歩を！

教師の姿は子どもにとって何よりの成長モデルです。「個別最適な学び…」も、とりあえず第一歩を踏み出すことが大切です。

修正・改善があることを前提として、まずは挑戦うまく行かなくて当たり前。教師も子どもも**失敗が日常！失敗を前向きに捉える！**

AARサイクルで「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の実現に向けた授業改善と一緒に取り組み、子どもの可能性を伸ばしていきましょう。



AARサイクルの出身

OECDラーニング・コンパス
（学びの羅針盤）2030
— OECD（経済協力開発機構）



AARをもっと詳しく

VUCA時代を生き抜く
マインドセットは「デバッグ主義」
— 東京大学公共政策大学院教授 鈴木 寛



個別最適な学びとの関連

課題解決のために、インターネットや書籍で情報を探しても見つけられないことがあります。その時に、情報を持っていそうな人を予測して連絡を取り、実際に会って話をしたり新たな情報源を探したりと試行錯誤しながら、解決の糸口を探る姿。